

27D-pm05

臨床薬剤師におけるシミュレーション教育

○大澤 晋¹, 万代 康弘², 名和 秀起³, 錦織 淳美³, 香西 佳美², 小川 敦³, 武本 あかね³, 白石 奈緒子⁴, 西宮 祐輔³, 日野 隼人³, 山地 恵民³, 山田 隆子⁵, 岡本 亜紀⁵, 佐野 俊二¹, 千堂 年昭³ (岡山大病心臓血管外科, ²岡山大医療教育統合開発センター, ³岡山大病院薬, ⁴岡山大薬, ⁵岡山大保健)

【目的】薬学部における6年制教育が始まってから臨床薬剤師としての社会的なニーズが高まってきているが、実際の医療現場や医師およびコメディカルからは、以前と有意差を持つほどの印象につながっていないのも事実である。これは、従来の薬学教育の構造的問題がそのまま6年制教育に移行していることが問題点であると考えられる。臨床現場では治療の最終目標は患者であるが、そこへの到達過程が薬剤師は薬学部教育であり、医師及びその他の医療スタッフは医学部系教育が基盤にある。特に、解剖学・病態生理・診断学に関する知識が不足しており、医療現場での乖離を生じる原因と考えた。リスクマネジメントや医学生教育の一環でシミュレーション教育が盛んに行われているが、これを応用することで臨床薬剤師の潜在能力を引き出すことができるかを試みたのでその取り組みを紹介する。【方法・結果】シミュレーショントレーニングを段階的に行う。第1段階として当院薬剤師を対象に、希望者に対しシミュレーショントレーニングに精通した医師主導でトレーニングを開始した。3回の参加を条件に第2段階の薬剤師を対象としたファシリテータープログラム(2日間コース+1週間ICUトレーニング+判定テスト1日)を行うことで薬剤師内に指導者を育成し、第3段階として育成したファシリテーターが医師やコメディカルと各テーマに対し打ち合わせを行い、多職種参加型シミュレーションコースを運営する方法を行っている。コース開催後、他のメディカルスタッフが考えている、病態生理や診断、治療方針を詳しく理解でき、日常業務にも反映できるようになった。【結語】卒後薬剤師教育の一環としてシミュレーション教育の導入は、病態生理・疾患の全体像を把握し、卒後臨床薬剤師の潜在能力を引き出す上で、効果的な方法であると考えられる。